

I 第23週の発生動向 (2008/6/2~2008/6/8)

1. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内において2007年第45週から、むつ保健所管内では、2007年第48週から**警報**が続いています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、東地方+青森市保健所管内において第8週から、**警報**が続いています。
3. 感染性胃腸炎については、むつ保健所管内において、多い報告数が続いていることから注意が必要です。
4. インフルエンザについては、報告は上十三保健所管内すべてA型でした。

II 第23週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 <small>(前週比)</small>	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数						
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(85) インフルエンザ									34	3.78			34	0.52	32											
(74) RSウイルス感染症			2	0.22									2	0.05	0											
(75) 咽頭結膜熱	5	0.56	11	1.22					4	0.67	7	1.75	27	0.64	-6				5	0.63						
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	2.56	28	3.11	4	0.44	2	0.40	6	1.00	3	0.75	66	1.57	-10	2	2.00	21	2.63							
(77) 感染性胃腸炎	54	6.00	14	1.56	12	1.33	12	2.40	30	5.00	46	11.50	168	4.00	-5	3	3.00	51	6.38							
(78) 水痘	9	1.00	21	2.33	15	1.67	8	1.60	19	3.17	1	0.25	73	1.74	17			9	1.13							
(79) 手足口病															-2											
(80) 伝染性紅斑					7	0.78							7	0.17	0											
(81) 突発性発しん	6	0.67	4	0.44	5	0.56			1	0.17	7	1.75	23	0.55	2			6	0.75							
(82) 百日咳	1	0.11					1	0.20					2	0.05	1			1	0.13							
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0										
(83) ヘルパンギーナ	17	1.89			1	0.11	1	0.20	21	3.50			40	0.95	14			17	2.13							
(73) 麻しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0										
(84) 流行性耳下腺炎	2	0.22	1	0.11	1	0.11	1	0.20	2	0.33			7	0.17	1			2	0.25							
(86) 急性出血性結膜炎															0											
(87) 流行性角結膜炎	5	2.50			3	1.50							8	0.73	3			5	2.50							
(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.00	6	6.00					1	1.00	8	1.33	-1											

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (小児科+内科)	小児科	内科	眼科	基幹
東地方	2	1	1	0	0
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
青森市	12	8	4	2	1
合計	65	42	23	11	6

は警報
 は注意報
 「空欄」：患者発生数0

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注：届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前3人、八戸6人、上十三1人、青森市1人 (20年計:224人)
- (34) つつが虫病(四類全数把握疾患)：五所川原1人、上十三1人 (20年計: 7人)
- (73) 麻しん(五類全数把握疾患)：弘前3人、上十三1人 (20年計: 51人)

感染症の窓

水痘

(人/定点)

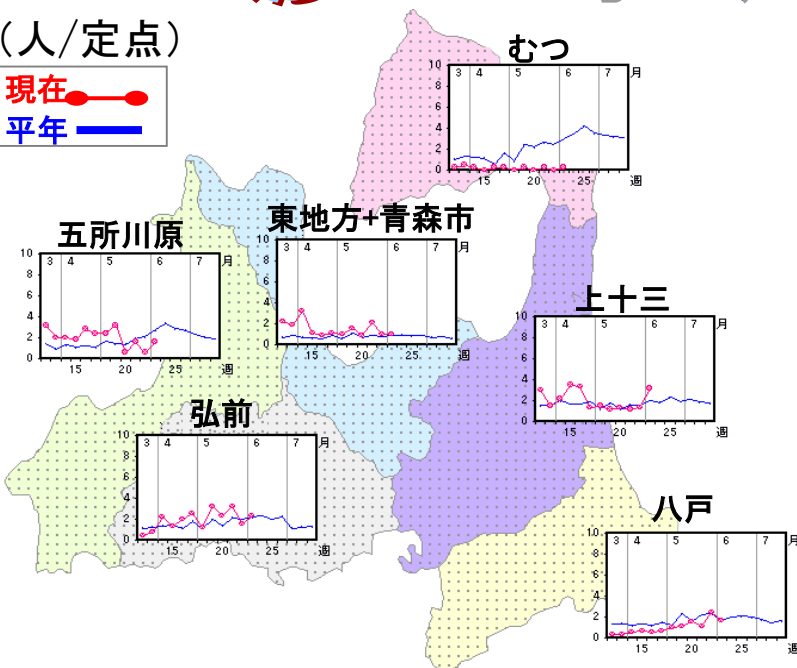
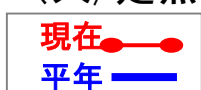


図 保健所管内別届出数推移

水痘は、10~20日の潜伏期間の後、**発熱**、**倦怠感**、**発疹**が見られます。発疹は、身体ばかりでなく、鼻、のどの粘膜、目の結膜や角膜などにもでき、**紅斑**、**水疱**、**膿疱**、**痂皮化**の順に進みます。現在、上十三保健所管内において増加傾向にあり、県全体では、昨年同時期より多い届出数で推移しています。

発症後は、水疱が痂皮化するまで感染する可能性があり、家庭内感染が多いことから、発症していない乳幼児が居る家庭では、注意が必要です。ワクチン接種については、医療機関、保健所等に相談することをお勧めします。